

I 2017年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2017年度大学評価結果総評】

現代福祉学部の教育理念である「ウェルビーイング (Well-being) =健康で幸福な暮らしと社会」という概念を実現する学部としての方向性を明文化し、教育方法の質の向上を目指し、専門教育を達成できるよう継続的に検討・改善を行っていることは評価に値する。

内部質保証についてはFD検討委員会、質保証委員会を設置し、定期的に検討を行い目標の達成状況を点検しており、適切に維持されている。

教員組織においては教員の年齢構成の適正化に向けた努力が認められる。学部内では非常勤講師も招き、大学院教授会と連携して、合同開催のWell-being研究会を実施していることは評価できる。

カリキュラムについては「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3分野を基礎とし、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとして、基礎から応用へと学習の体系的・順次性を確保したカリキュラム編成がなされ、さらに3~4年次には実習教育を行うことで、実践力を養う。現代福祉学部の履修の手引きには各学年での標準的な履修方法を提示し、体系的に学べるように配慮している。また専門領域を超えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置していることは評価できる。

また1年生を対象とした少人数の基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施することにより高大接続への配慮を行っている点、基礎演習の指導内容や進め方の向上を目的に教授会懇談会を実施し改善点を検討していることは評価すべき点である。2016年度にはFD推進センター作成の「学習ハンドブック」を配布し基礎演習での指導に活用している。

基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則20名以下の少人数教育を行い、きめ細かな学習指導を行っていることは評価できる。授業相互参観やソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招き報告会を実施するなど、効果的な授業形態の導入にも努めていることが伺える。

また、学生への「授業改善アンケート」「学部独自のカリキュラム改善アンケート」「モニタリング調査」を行い、教育成果を適切に検証した上で、改善されるよう工夫している。

全体的にみて、現代福祉学部の運営は適切になされていると思われる。ウェルビーイングの実現という具体的な目標が明確に掲げられているからであろうが、2学科体制をより有機的に発展させていけるよう、今後の改善に期待したい。日本の現代社会において問題となっている少子高齢化、子供の貧困率の増加、虐待、DVなど多々ある問題を解決するスペシャリストの育成に今後が期待される。

最後に、自己点検・評価シートについては、2015年度大学評価総評にも申し添えられているが、具体的な記述がやや不足しているため、この点については次回の改善が望まれる。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】(～400字程度まで)

評価を受けた点を今後も継続的に達成するとともに、現代社会の問題に対応できるスペシャリストの育成に向けて、さらなる努力を重ねていきたい。自己点検・評価シートの記載については、より具体的な記述となるよう心がけた。

【2017年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

現代福祉学部の教育理念である「ウェルビーイング (Well-being) =健康で幸福な暮らしと社会」という概念のもとその専門性を生かすことのできる十分な教育カリキュラムが組み立てられている。また、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいては少人数教育を行ない、なおかつ「授業改善アンケート」「学部独自のカリキュラム改善アンケート」「モニタリング調査」を行うことにより相互のモチベーションの向上に役立てていることは大いに評価できる。これからの少子高齢化社会において必要不可欠の分野のため、スペシャリスト育成に向けて、さらなる教育の充実を期待したい。付記として、自己点検・評価シートへの記載内容が改善されたことも評価したい。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

【理念・目的】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

法政大学の基本理念である「開かれた大学、開かれた精神」や「自立型人材の育成」を基盤とした上で、「Well-being＝健康で幸福な暮らしと社会の実現」をキーワードとするミッションを実現する学部として現代福祉学部は2000年に創設された。本学部の教育理念は、Well-being という幅広い概念でとらえ、従来の「社会福祉」系学部での教育内容にとどまらず、Well-being に欠かせないコミュニティの再生や創造にかかわる「地域づくり」と、こころの健康を支える「臨床心理」を総合的に学ぶことで、幅広い福祉社会を実現する人材を養成することである。

この学部の教育理念をより明確に社会に示すために2010年、福祉コミュニティ学科と臨床心理学科の2学科に再編した。これは「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の幅広い知識の習得と、＜社会福祉／地域づくり＞、＜臨床心理学＞の専門的・体系的な学習という二つの教育的要請に応えるためであり、これまでの学部の教育理念を継承し発展させるためである。

またこうした教育理念を実現するためには、「社会福祉」、「地域づくり」、「臨床心理」に関連するフィールドとの連携が欠かせない。キャンパス内での教育にとどまらず、フィールドでの実習教育や調査研究活動を通して、Well-being を推進する方法を具体的に学ぶことを教育の基本的な方向性としている。

【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的】（教育目標）※学則別表（11）

ウェルビーイングの実現という学部の教育理念に基づき、福祉コミュニティ学科、臨床心理学科のいずれにおいても、幅広い福祉の視野をもって社会に貢献できる福祉マインドを身につけた人材養成を行う。その上で、各学科の教育目標は下記のとおりである。

＜福祉コミュニティ学科＞

1. 人びとの心の問題も視野に入れた豊かな福祉コミュニティの創造に貢献できる専門的人材を養成する。
2. 地域社会の福祉リーダーとして、地域社会で起きている問題に主体的に取り組む人材を養成する。

＜臨床心理学科＞

1. 地域の暮らしや制度、人びとの生活や福祉サービスを視野に入れつつ、こころの問題にかかわる専門的人材を養成する。
2. 個人・家族・コミュニティにかかわる心理学を体系的に学んだ人材を養成する。

①学部（学科）として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
②学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
③理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	

（～400字程度まで）※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

理念・目的の内容についての適切性および表現について、教務委員会にて毎年検証を行い、修正内容を教授会に提出して承認を得ている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
②どのように理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	

（～400字程度まで）※具体的な周知・公表方法を記入。

学部のホームページにおける学部紹介コーナーで、「現代福祉学部の理念・目的」「教育目標・方針」、「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」として紹介し、大学構成員（教職員と学生）ならびに社会に対して公表している。さらに新カリキュラム対応の2018年度入学生に対しては、新入生ガイダンスにおいて「カリキュラム・ツリー」を配布し、ディプロマ・ポリシーとともに説明を行った。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【この基準の大学評価】

現代福祉学部は従来の「社会福祉」系学部での教育内容にとどまらず、Well-being に欠かせないコミュニティの再生や創造にかかわる「地域づくり」と、こころの健康を支える「臨床心理」を総合的に学ぶことで、幅広い福祉社会を実現する人材を養成することという明確な理念・目的が設定されている。その専門性に特化した福祉コミュニティ学科と臨床心理学科の2学科において具体的な教育目標が設置されている。その内容については毎年教務委員会において検証を行ない修正内容について教授会で承認を得るという適切なプロセスを踏んでいる。また、理念・目的については、「教育目標・方針」「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」とあわせて学部ホームページ等に掲載することにより、周知・公表されている。

2 内部質保証

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

①質保証委員会は適切に活動していますか。	はい いいえ
----------------------	--------

【2017年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。

- ・学部に FD 検討委員会ならびに質保証委員会を設置し、定期的な検討を行っている。
- ・FD 検討委員会において、「授業改善アンケート」等をもとに FD を検討するとともに、全学的な自己点検・評価活動については質保証委員会で検証を行っている。
- ・質保証委員会の構成は、学部執行部以外の教員から選出し、第三者的立場から客観的に自己点検・評価シートの内部監査を行っている。
- ・2017年度は2018年2月17日に質保証委員会を開催し、2017年度目標の達成状況を点検した。

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
12月13日に実施した Well-Being 研究会において、教育開発支援機構 FD 推進センター長の竹口圭輔氏による「100分授業に向けて」の講義を実施し、2018年度からスタートする授業時間変更への対応方法の認識を深め、適切に授業を行い授業の質を保つことができるように工夫した。	2.1①

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部内において FD 検討委員会および質保証委員会を設置して定期的な検討を行っており、学部内における点検・評価結果を客観的に評価できる体制整備ができている。また質保証委員会において学部執行部以外より委員を選出して構成しており、客観性や公正性を確保できていると考えられる。2018年2月に2017年度の目標の達成状況を確認しており、質保証委員会は適切に活動を維持していると考えられる。今後はより具体的な質保証活動を期待したい。

3 教育課程・学習成果

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

【学位授与方針】

ウェルビーイングを実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、学位授与にあたっては、以下の方針とする。

<福祉コミュニティ学科>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（社会福祉学）」を授与する。

1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。
3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、社会福祉・地域づくりの学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。
4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。
5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職や地域住民などと協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。

<臨床心理学科>

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士（臨床心理学）」を授与する。

1. ウェルビーイングを多角的に理解するための、幅広い知識を習得している。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得している。
3. コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題について、臨床心理の学問領域の視点・研究方法を用いて考察することが出来る。
4. ウェルビーイングを実現する人材として、自分の役割を自覚することが出来る。
5. 自らフィールドに出かけ、様々な専門職と協力しながら、コミュニティが抱える課題の解決に取り組むことが出来る。
6. 身に付けた知識・スキル・態度を総合的に活用しながら、自らが立てた研究課題にそれらを適用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得している。

①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。

はい いいえ

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

【教育課程の編成・実施方針】

ウェルビーイングを実現するための人材養成という学部・学科の教育理念を踏まえ、下記のような教育課程を編成する。

<福祉コミュニティ学科>

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、社会福祉・地域づくりに関する専門教育科目を置いている。
3. 専門教育科目では、ソーシャルポリシー分野・コミュニティマネジメント分野・ヒューマンサポート分野の3つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。
4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。
5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割や地域住民の活動を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。
6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。

<臨床心理学科>

1. ウェルビーイングを理解するための幅広い知識を習得するために、総合教育科目としてコミュニケーションスキル、情報リテラシー、視野を広げ論理的な思考力を身につける基礎的科目を置いている。
2. ウェルビーイングをコミュニティで実現するために必要な専門的知識、専門的スキルを獲得するために、臨床心理に関する専門教育科目を置いている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>3. 専門教育科目では、臨床心理分野、教育・社会心理分野、認知・学習心理分野、精神保健・福祉分野の4つの専門領域において、コミュニティで実際に起きているウェルビーイングの課題を解決する視点および方法を学ぶことが出来る。</p> <p>4. 基礎演習、専門演習、実習関連教育など、全学年における個々の学生の特性に応じたきめ細かな少人数教育を通して、ウェルビーイングを実現する人材となる自分の役割を考察する力を養う。</p> <p>5. 専門演習、実習関連教育を通して、自らフィールドに出かけ、様々な専門職の役割を観察し、実際のコミュニティが抱える課題をどのように解決しているかを学ぶ。</p> <p>6. 専門演習では、3年間同一の教員から指導を受け、身につけた知識・スキル・態度を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを活用し、口頭表現や文章表現によって伝える力を習得するようにしている。</p>	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。</p> <p>・ http://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/shokai/policy.html</p>	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。</p> <p>教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性および表現について、教務委員会において毎年検証し、修正内容を教授会にて承認を得ている。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
<p>3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。</p> <p>本学部は両学科ともに、学生の能力育成の観点から、「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」などの領域で働く、専門性の高い職業人の養成を大きな目標の一つとしている。地域をベースとしつつ、社会福祉学・心理学などの本学部の根幹となる学問の体系性に鑑み、基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラム編成がなされている。これらの知識・技能を基盤として3～4年次においては実習教育(ソーシャルワーク実習、精神保健ソーシャルワーク実習、スクールソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習、臨床心理実習)を行うことで、机上の学問から実践力へと展開するカリキュラム編成がなされている。</p> <p>さらに2018年度からは、福祉コミュニティ学科のコミュニティスタディ実習を「コミュニティマネジメント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップI・II」として2年次から選択できるように配置し、学びの多様性の保証に努めた。</p>	
<p>【2017年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>・2018年度からの新カリキュラムにより、2年次からの地域系領域の実習の履修が可能になり、計画的な履修によって、地域系実習と社会福祉系実習との両領域の実践的な学びが可能となり、学びの多様性をひろげた。</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <p>・2018年度現代福祉学部履修の手引き(各学科カリキュラム構成図)</p> <p>・2018年度現代福祉学部履修の手引き(各学科 II. カリキュラム、演習・実習科目、各学年での履修方法)</p> <p>・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー</p>	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
<p>(～600字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等)含む)への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>カリキュラムの順次性・体系性を維持しつつ、学生の能力育成の観点から学部の教育理念に基づいて、2014年度からカリキュラムを改編している。さらに2018年度入学生からは、語学教育と実習教育の充実のため新しいカリキュラムを展開</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

している。

『履修の手引き』と学部ホームページにおいて各学年での標準的な履修方法を学生に提示し、カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーにおいてはディプロマ・ポリシーごとの科目を学年ごとに列挙し、4年間を通して体系的に学べるよう配慮している。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリーの作成を行った。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ.各学年での履修方法）
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18kaikou.pdf>
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/fuku18curriculum.pdf>
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18curriculum.pdf>
- ・<http://www.hosei.ac.jp/documents/gakubu/gendaifukushi/gakka/shinri18kaikou.pdf>
- ・カリキュラムマップおよびカリキュラムツリー

③幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。

専門領域を越えて人間的・社会的・文化的価値を学んで人間性の涵養を図り、社会における総合的な判断力を培うことを目的として「総合教育科目」を数多く配置している。それらは、学部共通科目、視野形成科目、言語コミュニケーション科目、情報・調査系科目に細分化される。

1年次からの専門教育偏重をさけるために、専門基礎科目と専門基幹科目（一部を除く）以外の専門教育科目は2年次からの配当としている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図、Ⅱ.カリキュラム）

④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。

1年生を対象とした少人数の演習形式で行う基礎演習を開設し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施している。

基礎演習の内容および指導方法や進め方の向上を目的に、春学期と秋学期に基礎演習担当者懇談会を実施するとともに、教授会懇談会（2017年9月27日、2017年10月11日）において、教授会メンバー全員で意見交換を行っている。

また、基礎演習において、学生のモチベーション及びリーダーシップ能力の向上、思考力やプレゼンテーション能力の育成を目標にグループワークを行い、成果発表の場として「基礎ゼミコンペ」を行った。2017年度は2016年度よりも多くのクラスが参加し特徴ある内容とレベルの高いプレゼンテーションが行われた。2018年度は、全クラスが参加する仕組みを整えた。

さらに担当教員に教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」を配布し、基礎演習での指導に活用した。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・基礎演習の「基礎ゼミコンペ」を2018年度入学の1年生に対しては、全てのクラスが参加する仕組みを整えた。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて
- ・教育開発支援機構FD推進センターが作成した「学習ハンドブック」

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

(～400字程度まで) ※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

本学部においては、海外留学や海外企業および国際機関への就職を目指す学生を対象とした高度な英語教育プログラムとして、ネイティブスピーカーによる「インテンシヴ・イングリッシュ」を開講している。

さらに2018年度入学生からは言語コミュニケーション科目に関する大幅な見直しを行い、英語を必修とし、第二言語として中国語と日本手話を配置した。さらに英語能力の裏付けとなる「TOEIC」のクラスやIELTS試験対策を中心とした「インテンシヴ・イングリッシュ」のクラスを1年次から設置した。また2つの学科にまたがって、英語を教授言語としてい

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

る「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」を開講した。
 学生の国際性を涵養するために、海外の先進的な福祉・地域・心理の実践を学ぶ「海外研修制度」（2年生30名）も設けている。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・言語コミュニケーション科目の見直しによって、第一言語は英語が必修で、第二言語として中国語と日本手話が選択できる仕組みをつくった。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム、III. 研修・海外留学・英語プログラム）

⑥学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、職業選択に関わる広い視野の形成を促す教育を行っている。
 さらに、キャリア教育の一環として、大学における学びと職業選択の連関性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開講し、より実践的な教育を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 II.カリキュラム 1.カリキュラム）

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】 ※箇条書きで記入。

- ・年度当初に学年ごとの履修ガイダンスを実施し、科目履修に関するきめ細かな指導を行っている。
- ・履修相談会を開催し、ガイダンスでの内容を踏まえ、専任教職員による個別の履修相談を実施している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・ガイダンス資料（ガイダンス日程・各学年のガイダンス配布資料・履修相談会相談用紙）

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

- ・学生への学習指導については、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて、原則として20名以下の少人数教育を行うことで、きめ細かな学習指導を行っている。
- ・個々の教員はオフィスアワーを設定し個別指導を行っている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科カリキュラム構成図）
- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（各学科 IIカリキュラム 2.演習・実習科目）
- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き（専任教員紹介）
- ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。

S A B

(~400字程度まで) ※取り組み概要を記入。

シラバスにおいて各回の授業内容を明示するとともに、【授業時間外の学習】項目において学生が行うべき学習内容を示して、学生の学習時間（予習・復習）の確保を促している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・シラバス

④1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。

はい いいえ

【履修登録単位数の上限設定】 ※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

- ・1年次～4年次：1年間に48単位

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】 ※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

- ・上記の上限単位+再・未履修科目を履修する場合、各年次49単位を上限として履修ができる。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・教職科目・資格課程科目は履修登録単位数とは別に履修できる。 ・言語コミュニケーション科目の「インテンシヴ・イングリッシュ」は履修登録単位数に追加して履修できる。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度現代福祉学部履修の手引き 	
⑤教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【具体的な科目名および授業形態・内容等】 ※簡条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。 <ul style="list-style-type: none"> ・3領域における実習科目は、座学で得た知識や技術や価値を実際の現場との連携によって実践的に修得し、問題解決能力や実践力を身につけることができる授業形態としている。それらの学びは、年度末に実習報告書としてまとめている。 ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習およびコミュニティスタディ実習において、実習施設の方を招いて報告会を実施した。 ・より良い授業を目指して、授業相互参観（春学期と秋学期に実施し、授業形式に関する情報交換）を実施している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度各領域実習報告書 ・2017年度実習報告会資料 ・2017年度授業相互参観報告書 	
⑥それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで） ※どのような配慮が行われているかを記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習・専門演習・語学については、少人数教育を行うために1授業あたりの学生数を制限しクラス編成を行っている。 ・実習教育において、少人数での演習指導が行えるようにクラス編成を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度現代福祉学部履修の手引き 	
⑦シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。 <ul style="list-style-type: none"> ・教授会においてシラバスの充実を確認するとともに、兼任・兼任教員を含めすべての教員に講義概要の執筆依頼を配布し、詳細かつ適切な内容記述に関する注意喚起を行っている。 ・2014年度から、教務委員会がすべての講義のシラバスを検証し、改善すべき点を担当教員に伝えるプロセスを導入し適正化に努めている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス点検作業原稿、チェックリスト 	
⑧授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※簡条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの運用の適切性については、授業改善アンケート等の結果を参考として検証している。 ・基礎演習に関しては、春学期は共通のシラバスとなっているため、開講前に担当教員間で授業内容や方法などについて確認を行っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度授業改善アンケート結果 ・『基礎演習』における春学期（前期）共通プログラムについて 	
3.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※簡条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・個々の教員の成績評価法・評価基準については、シラバスの記載に基づいて適切に運用されている。また、一部の授業を除いて、成績評価の基準の統一を図っている。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・（現代福祉学部）成績評価割合のガイドラインについて 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>他大学における既修得単位の認定については、必要に応じて修得科目のシラバス内容を確認し、本学部の該当科目との内容の整合性を確認するなどして、適切な認定を行っている。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス 	
③厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>成績評価については、特に複数クラスを設定している基礎演習において、各クラスごとの偏りがないように、春学期と秋学期に基礎演習担当教員懇談会において打ち合わせを実施し、申し合わせ事項を作成した。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(現代福祉学部) 成績評価割合のガイドラインについて ・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」出欠と成績評価に関する申し合わせ事項 	
④学生の就職・進学状況を学部(学科)単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法、データの種類等】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部に就職委員会を設置し、専門ゼミを通して実態把握を行い、教授会で報告し実態を把握している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017 年度学生の就職・進学状況一覧 	
3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部(学科)単位で把握していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※簡条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績分布、進級状況などについては適切に把握し、教授会において情報共有がなされている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代福祉学部 進級・卒業審査資料 	
②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。</p> <p>福祉コミュニティ学科は、国家試験である社会福祉士と精神保健福祉士の対策講座を実施している。また、両国家資格合格者人数の把握によって学習成果を測定している。</p> <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験対策講座の資料 ・社会福祉士・精神保健福祉士合格者データ 	
③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入(取り組み例:アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用等)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関して、入学時と1年終了時にテスト(アチーブメントテスト)を実施し、学習成果を測定している。 ・2018 年度入学生からの「インテンシヴ・イングリッシュ」については、春と秋に受験する TOEFL のスコアを比較し、その学習効果を科目担当者と語学教育運営委員会とで検証を行い、より適切な授業運用や指導を行うよう努めている。また、このスコアは1年生および次年度のクラス編成にも用いる事とした。 ・ソーシャルワーク実習・精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習およびコミュニティスタディ実習において、実習報告会を実施するとともに実習報告書を作成している。臨床心理実習においても実習報告書を作成している。 <p>【2017 年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018 年度入学生より、英語能力測定ツールについてより汎用性の高い TOEIC に変更した。その TOEIC を春と年度末の 2 回実施することにより、個々人の能力の同定に寄与するとともに、担当教員の効果的な授業運営に活かし、また1年次および次年度のクラス編成にも役立てる。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アチーブメントテスト結果 	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・2017年度各領域実習報告書 ・2018年度入学生春 TOEIC テスト結果 	
④学習成果を可視化していますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>【学習成果可視化の取り組み】 ※取り組みを箇条書きで記入（取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年間の学習成果としての卒業論文について、そのテーマの一覧を作成し、教員間で情報共有がなされている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度現代福祉学部卒業生 卒業論文テーマ一覧 	
3.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。	
①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善に向けた取り組みを行っていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B
<p>(～400字程度まで) ※検証体制および方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年度の学科改組にともない再編成されたカリキュラムに対して、「授業改善アンケート」や学部が独自に実施している「カリキュラム改善アンケート」の結果に基づき、カリキュラム検討委員会、教授会懇談会、将来構想委員会等において改善点の検討を行ない、2014年度のカリキュラム編成において反映されている。 ・学生への「モニタリング調査」を毎年実施し、教育成果を教務委員会と教授会において検証している。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度学生へのモニタリング調査結果 	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> S A B
<p>【利用方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教授会において授業改善アンケート結果の情報について共有化を図っている。 ・これまでのアンケート結果や学生へのモニタリング結果を受けて、2018年度入学生から、より実践的な英語の能力を測定するため TOEIC テストを導入した。 <p>【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の英語能力の測定に関して、TOEIC テストへの変更と、それを4月と年度末の2回にわたって導入した。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年度授業改善アンケート結果 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (3.1～3.2)

<p>現代福祉学部両学科ではそれぞれ6項目からなる明快な学位授与方針が決められており、その方針と連動性を持った教育課程が構築・実施されている。教育目標、教育課程の編成・実施方針はホームページや履修の手引きで周知・公表されている。教育課程の編成・実施方針の適切性については、教務委員会で毎年検証され、修正内容は教授会で承認を得ることにより、適切に行われている。また2学科とも方針にフィールドワークが盛り込まれていることは評価できる。</p>

②教育課程・教育内容に関すること (3.3)

<p>現代福祉学部は専門性の高い学部であり、学問の体系的をもとに基礎から応用へと学習の順次性を確保したカリキュラムが編成されており、体系的に学べるように配慮されている。また2018年度入学生からは、語学教育と実習教育の充実のため新しいカリキュラムを展開しており、福祉コミュニティ学科のコミュニティスタディ実習を「コミュニティマネジメ</p>
--

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ント・リサーチ」「コミュニティマネジメント・インターンシップⅠ・Ⅱ」として2年次から取り入れたことは実践力を養い、学びの多様性を広げたという点で大いに評価できる。初年次教育・高大接続への配慮として少人数の演習形式で行なう基礎演習を開設していることや、基礎演習担当者懇談会の実施、教授会懇談会を開催して改善点を検討していることは評価できる。また、学生の国際性を涵養するために「インテンシブ・イングリッシュ」を1年次から設置するとともに言語コミュニケーション科目を見直して第二言語として日本語手話、中国語が選択できるようになった。「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の各現場において専門的な業務に従事する現職者を招き、実務領域の業務と課題に関する「フィールドスタディ入門」などの講義を実施し、さらに、キャリア教育の一環として、大学における学びと職業選択の連関性や就職活動の実際について学習する「キャリアデザイン論」を開設して、より実践的な教育を行っていることは大いに評価できる。

③教育方法に関すること (3.4)

現代福祉学部では年度当初ごとの履修ガイダンスを実施して履修指導が適切に行われている。さらに専任教員による個別の履修相談も実施している。各年次年度の履修登録単位数については上限が設定されている。ただし、教職や資格科目および「インテンシブ・イングリッシュ」は履修登録単位数とは別に履修できるように考慮している。個々の教員はオフィスアワーによる個別指導も行っており、基礎演習・専門演習・実習関連教育などにおいて原則20名以下の少人数教育を行い、きめ細かな学習指導がなされていることは評価できる。シラバスの【授業時間外の学習】項目において、学生が行うべき学習内容を示し(予習・復習)の確保を促している。シラバスについては教務委員会がすべて検証して改善すべき点は担当教員にフィードバックがされており、適切に検証が行われている。またその運用に関しては授業改善アンケートなどの結果を参考にして検証が行われている。

④学習成果・教育改善に関すること (3.5～3.7)

現代福祉学部では成績評価割合ガイドラインに基づいて成績評価と単位認定が適切に行われている。他大学等における既修得単位については、必要に応じてシラバスに基づき当該科目との内容の整合性を確認するなど適切に行われている。成績評価については複数クラス設定の基礎演習において、クラスごとの偏りがないように教員懇談会において打ち合わせ・申し合わせ事項の作成を行い対応措置がとられている。学生の就職・進学状況の把握方法は適切である。学位授与方針に明示した学生の学習成果は教授会において情報共有されており、国家試験対策も施行されている。具体的な学習成果の把握については、英語に関して、入学時と1年終了時にアチーブメントテストを実施し、また2018年度入学生よりTOEICを導入して年2回の実施により個々の能力測定や担当教員の効果的運営が行われていることは評価できる。4年間の学習成果となる卒業論文については、教員間で情報共有されている。また、学生による授業改善アンケート、モニタリング調査報告などにより教育成果の検証が適切に行われている。

4 学生の受け入れ

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

【学生の受け入れ方針】

<福祉コミュニティ学科>

【入学前に備えているべき能力】

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
4. 少子高齢化、子どもの貧困問題、地域間格差拡大、心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
5. 積極的に他者と関わり、実践を通じた学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- ・一般入試 (A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試および大学入試センター試験利用入試)

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生

- ・推薦入試（指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツに優れた者の特別推薦入試 等）
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生（指定校推薦入試）
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生（付属校推薦入試）
まちづくり実践へのモチベーションの高い学生（まちづくりチャレンジ入試：自治体推薦特別入試）
学業とスポーツを両立できる優れた人材（スポーツに優れた者の特別推薦入試）
- ・特別入試（外国人留学生入試 等）
国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生（外国人留学生入試）

<臨床心理学科>

【入学前に備えているべき能力】

1. 入学後の修学に必要な基礎学力としての知識を有している。
高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 物事を多面的かつ論理的に考察することが出来る。
3. 自分の考えを的確に表現し、伝えることが出来る。
4. 子どもの発達、対人関係や家族関係の問題や心のケアなど、21世紀が直面している多様な社会問題に深い関心を持ち、その解決のための自由な発想力と社会に積極的に貢献する意欲を有している。
5. 積極的に他者と関わり、実践を通じた学びを深めようとする態度を有している。

【各募集区分で重視する能力】

- ・一般入試（A方式入試、T日程入試、英語外部試験利用入試および大学入試センター試験利用入試）
基礎学力を重視しバランスの取れた学力を有する学生
- ・推薦入試（指定校推薦入試、付属校推薦入試、スポーツに優れた者の特別推薦入試 等）
自発性、指導性、自由な発想力をもつ優秀な学生（指定校推薦入試）
高大連携により、特色ある教育を目指し、意欲のある学生（付属校推薦入試）
学業とスポーツを両立できる優れた人材（スポーツに優れた者の特別推薦入試）
- ・特別入試（外国人留学生入試 等）
国際性を身につけた勉学の意欲のある外国人留学生（外国人留学生入試）

①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

はい いいえ

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。

はい いいえ

(~200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

収容定員に基づき、在籍学生数が適正に管理されている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

定員充足率（2013～2017年度）

（各年度5月1日現在）

種別\年度	2013	2014	2015	2016	2017	5年平均
入学定員	231名	231名	231名	231名	231名	
入学者数	227名	230名	245名	323名	259名	
入学定員充足率	0.98	1.00	1.06	1.40	1.12	1.11
収容定員	891名	902名	913名	924名	924名	
在籍学生数	930名	933名	938名	1,046名	1,067名	
収容定員充足率	1.04	1.03	1.03	1.13	1.15	1.08

※1 定員充足率における大学基準協会提言指針

【対象】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

①学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均

②学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率

【定員超過の場合】※医学・歯学分野は省略

提言	努力課題	改善勧告
実験・実習を伴う分野 (心理学、社会福祉に関する分野を含む)	1.20 以上	1.25 以上
上記以外の分野	1.25 以上	1.30 以上

【定員未充足の場合】

提言	努力課題	改善勧告
すべての分野共通	0.9 未満	0.8 未満

※2 定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準

年度	～2015	2016	2017	2018～
入学定員超過率	1.20 以上	1.17 以上	1.14 以上	1.10 以上
収容定員超過率	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上	1.40 以上

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

- ・前年度の学生募集および入学者選抜結果については、教務委員会および教授会に報告がなされ、その適切性について逐次、執行部・教務委員会・教授会において検討を行なっている。
- ・臨床心理学科における指定校の見直しを行い、指定校からの入学者を大幅に増やした。

【2017年度に変更や改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・臨床心理学科の指定校からの入学者数が少ない状況について、その原因分析を臨床心理学科教員会議で行うとともに、教務委員会において指定校の偏差値ランクや地域分布等の細かな見直し作業を行った。それらに沿って指定校の見直しを行った結果、2016年度が30校の指定校から5名の入学者であったものが、2017年度は62校から16名の入学者を確保することができた。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部の学生の受け入れ方針は正しく設定されており、福祉コミュニティ学科と臨床心理学科にわけて適切に記述されている。定員の超過・未充足については、この数年みられた超過は改善傾向にあるが引き続き注意を要する。臨床心理学科における指定校の見直しを行い、指定校入学者の確保を行ったことは評価できる。今後は、指定校入学者の入学後成績を追跡し、効果の分析が進められることを期待したい。学生募集および入学者選抜の結果は教務委員会および教授会で報告がなされており適切に検討が行われている。

5 教員・教員組織

【2018年5月時点の点検・評価】

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

【求める教員像および教員組織の編制方針】(2011年度自己点検・評価報告書より)

本学部の教員は、大学・学部の教育理念の基本的理解を前提として、(後述する)各学科の教育目標並びに学部・学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを実現できる教員であることを求めている。

具体的には、学部教育への入門期(1年生)における基礎演習は、開講教のほとんどを専任教員が担当することとしている。基礎演習を兼任教員にお願いする際でも、本学部教育にかかわりのある教員にお願いすることを基本としている。また専門基礎科目についても、その科目の大半を専任教員が担当することとしている。専門教育が本格化する2・3年生では、専門基幹科目について、その科目の大半を専任教員が担当することとし、専門演習Ⅰ・Ⅱ、実習や実習指導科目は、原則として専任教員が担当することとしている。最後に学部・学科教育のまとめをする4年生では、専門演習Ⅲおよび卒業論文の指導は専任教員が担当することとしている。このように、学部専門教育の基礎や基幹となる科目、学部教育の特徴である実習科目、そして最も学生と身近な存在である基礎演習と専門演習については、そのほとんどを専任教員が担当することを、教員組織の編制方針としている。また実習教育をサポートする教員として実習指導講師(任期付助教)を採用し、よりきめ細かな実習教育を実現することとしている。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。

- ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則
- ・学部教授会内規 2-2~2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則
- ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格
- ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規
- ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・教授会執行部 4名(学部長1名、教授会主任1名、教授会主任・実習委員長1名、教授会副主任1名)
- ・教授会(原則として月に2回)
- ・執行部会議
- ・教務委員会
- ・学部FD検討委員会
- ・質保証委員会
- ・カリキュラム検討委員会

【明示方法】※箇条書きで記入。

- ・学业内委員会委員一覧表

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部(学科)のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい いいえ

(~400字程度まで)※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性、国際性、男女比等の観点から教員組織の概要を記入。

2010年度の学科改組にもとづき、学部・学科のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②教員組織の編制において大学院教育との連携を考慮していますか。

はい いいえ

(~400字程度まで)※教員組織の編制において大学院教育との連携にあたりどのようなことが考慮されているか概要を記入。

大学院を担当する教員についても、学部同様の規程整備を行い、大学院教育への順次的連続性と専門性の確保に努めている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・特になし

2017 年度専任教員数一覧

(2017 年 5 月 1 日現在)

学部 (学科)	教授	准教授	講師	助教	合計	設置基準上 必要専任教 員数	うち教授数
現代福祉	24	2	0	4	30	24	12

専任教員 1 人あたりの学生数 (2017 年 5 月 1 日現在) : 35.6 人

③特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい いいえ

【特記事項】 (~200 字程度まで) ※ない場合は「特になし」と記入。

教員の年齢構成については採用時の配慮事項としており、40 歳代の層の充実により、年齢層の偏りが改善されてきている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

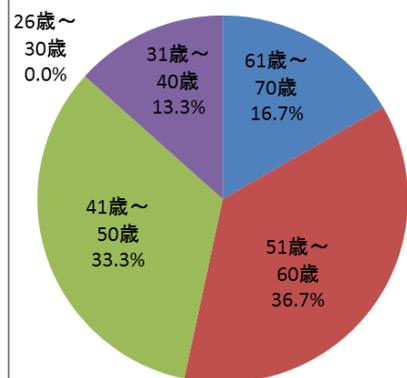
・特になし

年齢構成一覧

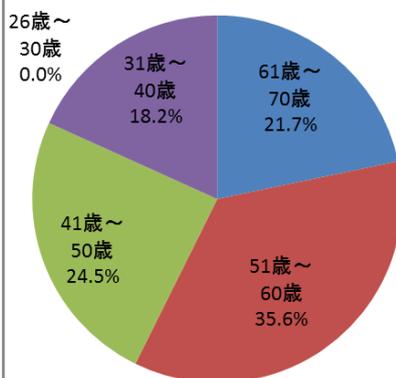
(2017 年 5 月 1 日現在)

年度 \ 年齢	26~30 歳	31~40 歳	41~50 歳	51~60 歳	61~70 歳
2017	0 人 0.0%	4 人 13.3%	10 人 33.3%	11 人 36.7%	5 人 16.7%

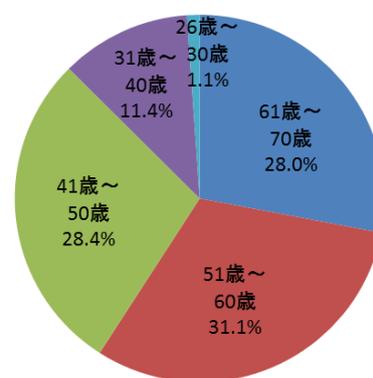
年齢構成比
(2017年度現代福祉学部)



年齢構成比
(現代福祉学部過去5年平均)



年齢構成比
(2017年度全学部平均)



5.3 教員の募集・採用・昇任等を適切に行っているか。

①各種規程は整備されていますか。

はい いいえ

【根拠資料】 ※教員の募集・任免・昇格に関する規程・内規等の名称を簡条書きで記入。

- ・学部教授会内規 2-1 専任教員招聘規則
- ・学部教授会内規 2-2~2-4 公募実施細則、兼任講師委嘱基準、特別招聘細則
- ・学部教授会内規 3-1 専任教員の身分昇格
- ・学部教授会内規 学部任期付教員招聘細則、教員の採用及び昇格の選考に関する内規
- ・規程第 975 号 現代福祉学部助教に関する規程

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい いいえ

【募集・任免・昇格のプロセス】 ※簡条書きで記入。「上記根拠資料の通り」と記載し、内規等 (非公開) を添付することでも可。

- ・上記根拠資料の通り

5.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部 (学科) 内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】 ※簡条書きで記入。

- ・学部内では、非常勤講師も招いて大学院教授会と合同開催の Well-being 研究会を毎年 2~3 回開催し、研究交流を図りながら教授法についてもディスカッションしFD活動を推進している。

【2017 年度のFD活動の実績 (開催日、場所、テーマ、内容 (概要)、参加人数等)】 ※簡条書きで記入。

- ・Well-being 研究会

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

- 第1回 2017年6月17日(土)、16:00~17:30 市ヶ谷キャンパス 九段校舎5階 第二会議室
佐野竜平准教授 「東南アジア(アセアン)地域における国際協力・開発を考える」
西田ちゆき助教 「法人後見における利益相反への対応と課題」
- 第2回 2017年12月13日(水)、15:10~16:40 福祉302教室
竹口圭輔教授(教育開発支援機構FD推進センター長)「100分授業に向けて」

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2017年度 Well-Being 研究会開催の案内

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部では、大学・学部の教育理念の基本的理解を前提として、各学科の教育目標並びに学部・学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーを実現できる教員であるとした求める教員像を定め、求める能力・資質等については専任教員招聘規則等、各教授会内規により明らかにされており適切である。また、教授会・執行部体制が構成され、かつ各種委員会が設置され、役割分担・責任の所在の点から十分な組織的な体制が整っている。カリキュラムにふさわしい教員組織が備えられ、教員構成は、年齢が著しく偏らないように配慮されている。各種規程の運用については、それらに則り適切に行われている。FD活動については研究科教授会とも連携して毎年数回の開催がなされていることは大いに評価できる。

6 学生支援

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部(学科)単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】※箇条書きで記入。

- ・教務委員会および教授会において把握し、適切な対応が行われている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・現代福祉学部 進級・卒業審査資料
- ・留級者一覧
- ・休学届、退学届

②学部(学科)として学生の修学支援をどのように行っていますか。 S A B

(~400字程度まで)※修学支援の取り組みの概要を記入(取り組み例:クラス担任、オフィスマワー、学生の能力に応じた補習・補充教育、アカデミックアドバイザーなど)。

- ・オフィスマワーを設け、学生に周知し、修学支援を行っている。
- ・基礎演習と専門演習を必修科目とすることで、全ての生徒がゼミに所属し、担当教員が細やかな修学支援を行っている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2018年度現代福祉学部履修の手引き

③成績が不振な学生に対し適切に対応していますか。 S A B

【成績不振学生への対応体制および対応内容】※箇条書きで記入。

- ・成績不振の学生については、年度当初の学年別のガイダンスとは別に、留級者を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。また学部で定めた基準により、低GPA学生を抽出し、ゼミ担当教員・教務委員を中心に当該学生の状

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

況を確認する等、きめ細かな対応を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス日程、履修相談会相談用紙 ・低 GPA リスト ・成績不振、長期欠席学生等への対応について 	
④学部（学科）として外国人留学生の修学支援について適切に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※外国人留学生の修学支援に関する取り組みの概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・入学時のガイダンスにおいて、外国人留学生を対象としたガイダンスおよび個別相談を実施している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス日程 	
⑤学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・各教員のオフィスアワーに加え、専門演習や基礎演習、実習担当クラスなどの少人数クラスにおいても各教員が学生の相談に応じ、学生にとって相談しやすい相手を選べるようにしている。また、必要に応じて事務課とも情報を共有し、学生の生活面と学業面の両面を支えるべく取り組んでいる。 ・学部や大学としての対応が必要な場合には、その案件に応じて、学生のプライバシーに配慮しつつ執行部レベル・教務委員会レベル・教授会レベルでの検討を行い対応している。 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部では卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況について、教務委員会および教授会で把握されており、適切な対応が行われている。修学支援としてオフィスアワーの活用のほか、ゼミ所属者については担当教員より細かな修学支援が行われている。成績不振者に対してはガイダンスや個別指導も行い適切に対処している。外国人留学生の修学支援についてはガイダンスや個別相談を実施しており適切に行われている。学生の生活相談については、オフィスアワーや演習等の少人数クラスにおいても担当教官が学生の相談に応じており、必要に応じて事務課とも情報共有を行っている。案件に応じて執行部・教務委員会・教授会レベルでの検討も行っており適切に対処されている。

7 教育研究等環境

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。	
①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどの教育研究支援体制はどのようになっていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
(～400 字程度まで) ※教育支援体制の概要を記入。	
受講者数の多い授業を中心に、必要に応じてティーチング・アシスタント (TA) を配置している。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 長所・特色

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部では、受講者数の多い授業を中心に必要に応じてTAを配置しており適切である。

8 社会連携・社会貢献

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。	
①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っているか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーク実習報告会やコミュニティスタディ実習報告会を、実習受入先などの関係者を招いて開催している。 ・地域づくりゼミを中心に、岡山県津山市上加茂地区における集落間連携による生活支援・移住者受入プロジェクト（地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業）、小千谷市真人地区のコミュニティ活性化プロジェクト（新潟県大学生の力を活かした集落活性化事業）、多摩川河川敷におけるユニバーサルな利用環境にするための調査実践プロジェクト（世田谷区提案型共同協働事業）、などの取り組みを、地元自治体、地域住民らと連携して継続的に実施しており、学生の調査や実践の成果を住民活動の活性化や空き施設の活用等の形で具体的にもたらしている。 <p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 長所・特

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部においてソーシャルワーク実習報告会やコミュニティスタディ実習報告会を、実習受入先などの関係者を招いて開催している。また、各地域での地元自治体、地域住民らとの連携によるプロジェクトに継続的に参加しており、それぞれにフィードバックも行われていることは高く評価できる。

9 大学運営・財務

【2018年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の役職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。	
①学部長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
(～200字程度まで) ※概要を記入。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

教授会規程（学部長の権限や責任等を明記）を設け、その規定に則った運営が行われている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・教授会規程

(2) 長所・特色

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 問題点

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

現代福祉学部では学部長の権限や責任等が明記されている教授会規程を設け、その規程に則った運営が行われている。

Ⅲ 2018 年度中期・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	現代福祉学部および福祉コミュニティ学科・臨床心理学科の教育理念について、外部に発信するとともに学部内の学生に対しての周知を深める。
	年度目標	①教育理念の周知をはかるため、学部パンフレットを改訂する。さらに学生にも参画してもらいながら、手書きのリーフレットも更新していく。 ②教育理念を実現している活動を学部ホームページに随時掲載する。 ③学部パンフレットや映像資料および学部ホームページを積極的に活用して、学部内外に教育理念の周知を図る。
	達成指標	①学部パンフレットの改訂とリーフレットの作成。 ②学部ホームページの掲載内容およびホームページの月間閲覧者数のカウントの検証。 ③オープンキャンパスや高校説明会等における、学部パンフレットとリーフレットの配布と広報活動。学部内学生については、各ゼミを通して学部の理念と目的の周知。
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	継続的な内部質保証を実現するための PDCA サイクルを充実させる。
	年度目標	①質保証委員会と学部執行部による PDCA サイクルを運用する。 ②非常勤講師も交えて、FD 改善に向けた研究会の内容について検討する。
	達成指標	①質保証委員会による年度目標の推進・達成状況の確認を定期的に行う。 ②Well-being 研究会を年 3 回開催し、そのうち 1 回は FD 改善のための意見交換を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	2018 年度から実施された新しいカリキュラムにおける教育課程と教育内容についてモニタリングすることにより、その改善策について検討を進める。
	年度目標	2018 年度カリキュラムについて、学生の評価結果を調査し改善策を協議する。特に、言語コミュニケーション科目の検証に重点を置く。また、新たに導入された 100 分授業についての検証も行う。
	達成指標	①学生へのモニタリング調査を秋学期に実施する。 ②モニタリング調査により明らかになった課題について、教務委員会および教授会懇談会において改善策を協議する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	教育目標に即して、国際的な活動も視野に入れた専門領域横断的、かつ実践現場を体験できる教育プログラムについて検討を重ねる。
	年度目標	①3 つの専門領域の横断的な教育を進めるための課外活動や講義形態のあり方について検討を行なう。 ②ゼミでの活動や地域系実習における、海外での展開を検討し、安全な仕組みを構築する。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	①3つの専門領域を横断する新たな教育プログラムについて教務委員会ならびに実習調整委員会において協議し、その方向性を提示する。また、専門領域を超えたゼミどうして合同ゼミを開催する。 ②海外での実習や研修についての検証を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	高い専門性と3領域をいかした総合的な学びを通して身につけた教育成果について、学内外に積極的に公表していく。
	年度目標	①各実習および学部独自のプログラムである海外研修や国内研修についての報告書の作成と報告会を開催する。 ②4年間の学修成果である卒業論文の報告会についての開催を促す。 ③研究活動の学修成果として、積極的に懸賞論文へ投稿するように促す。
	達成指標	①3領域の実習および海外研修・国内研修の報告書と報告会について検証する。 ②専門領域ごとあるいは複数のゼミ合同での卒業論文報告会の開催実態を調査する。 ③学内外の懸賞論文に学部内で5本投稿する。
No	評価基準	学生の受け入れ
6	中期目標	学部の教育理念に基づき、留学生も含めた多様な入試の在り方を充実させる。
	年度目標	留学生受け入れの動向や指定校入試、自治体推薦入試、グローバル体験入試などの特別入試の多様化についても、学部の教育理念に照らして検討する。
	達成指標	①教務委員会において、各入試の細部を検討協議し、教授会にて決定する。 ②教務委員会や教授会懇談会を定期的に開催して入試方法の多様化を協議し、次年度以降の実施プログラムを提示する。
No	評価基準	教員・教員組織
7	中期目標	将来的な発展も見据えて、学部の教育理念に即した適切な科目、教員配置、教員組織のあり方について検討を行う。
	年度目標	本学部の中期的なビジョンのもと、本学部の専門性と学際性をいかした教員組織の方向性について検討する。
	達成指標	①情報を収集整理し、本学部の強みと課題を整理する。 ②教務委員会と教授会懇談会を定期的に開催し、上記の調査結果を踏まえて教員組織の将来像をとりまとめる。
No	評価基準	学生支援
8	中期目標	個々の学生の状況に応じて細やかな支援体制を維持するとともに、成績不振者への対応によって退学者を減らし、多様な学生へ目配りできるような支援を検討する。
	年度目標	①学生支援のなかでも、とりわけ低GPA学生に対する支援の仕組みを整える。 ②春に実施している履修相談を充実させる。
	達成指標	①学部基準による低GPA(0.5)の検証を行う。 ②履修相談の相談者件数と相談内容の検討を行う。
No	評価基準	社会貢献・社会連携
9	中期目標	学生や教員における個人・グループでの社会貢献や社会連携についての現状把握に努めるとともに、それらの活動についての認識を深めることを通じて今後の展開を促す。
	年度目標	①学生や教員、また演習などにおける社会貢献や社会連帯との活動について把握する。 ②それらの結果を学部内で発表し、共有することを通して、今後の活動の活性化を図る。
	達成指標	①学生と教員、演習へのアンケートの実施。 ②そのアンケートをもとに、個々の活動を「見える化」して、教務委員会および教授会で公開する。 ③オープンキャンパス等においても、その結果を公表していく。
【重点目標】 ・2018年度の新カリキュラムにおける言語教育についての検討、また新設の「Community Based Inclusive Development」 「Disability and Development in Asia」の科目について検証を行う。さらに春と秋に行うTOEICのスコアを用いて教育の成果を把握する。 ・2018年度より導入された100分授業についての情報収集および検証を行う。		

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

【2018年度中期・年度目標の大学評価】

現代福祉学部では、各基準において具体的な目標および達成指標が設定されており、おおむね適切であると思われる。また、今後の国際性を鑑み、2018年度入学生から英語を教授言語とする「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」の開講やTOEICの年2回実施などの取り組みが行われているが、これらの取り組みについて検証を行うことが重点目標とされており、個々人の能力の測定に寄与するとともに、担当教員の効果的な授業運営にも活かされるものとして期待される。

【大学評価総評】

現代福祉学部の教育理念である「ウェルビーイング (Well-being) =健康で幸福な暮らしと社会」という概念のもと、その専門性を活かすことのできる教育カリキュラムが組まれていることは評価できる。

内部質保証についてはFD検討委員会、質保証委員会を設置し、定期的に検討を行い目標の達成状況を点検しており、適切に維持されている。教員組織においては教員の年齢構成の適正化に向けた努力が認められる。学部内では兼任講師も招き、研究科教授会と連携して、合同開催のWell-being研究会を実施していることは評価できる。カリキュラムについては「社会福祉」「地域づくり」「臨床心理」の3分野を中心に福祉コミュニティ学科と臨床心理学科の2学科としたスペシャリティの養成を大きな目標の一つとして、基礎から応用へと学習の体系的・順次性を確保したカリキュラム編成がなされ、さらに2年次から実習教育を行うことで、実践力を養えること、今年度より英語を教授言語としている「Community Based Inclusive Development」と「Disability and Development in Asia」を開講したことは大いに評価できる。また1年生を対象とした少人数の基礎演習を開講し、大学における学習の方法や技術に関する初年次教育を実施することにより高大接続への配慮を行っていることは評価すべき点である。授業相互参観やソーシャルワーク実習において、実習施設の方を招き報告会を実施するなど、効果的な授業形態の導入にも努めていることが伺える。また、学生への「授業改善アンケート」「学部独自のカリキュラム改善アンケート」「モニタリング調査」を行い、教育成果を適切に検証した上で、改善されるよう工夫している。全体的にみて、現代福祉学部の運営は、組織的に十分適切になされている。日本社会が直面する少子高齢化、子供の貧困率の増加、虐待、DV、地震等の災害後のケア、情報社会を取り巻く人間関係など、日常において多々ある問題の解決にあたるスペシャリストの育成が、今後さらに期待される。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。